



新川水土地より

新川農林振興センター

当センターのホームページは下記URLから
http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1630/index.html

農業農村整備広報・広聴連絡会

〒937-0863 魚津市新宿10-7
電話(0765)22-9137【指導課】

大区画ほ場整備工事の完工を迎えて

経営体育成基盤整備事業 布施川左岸地区

経営体育成基盤整備事業 布施川左岸地区がこのほど完工し、蛇田地区に建立された記念碑の除幕式と完工祝賀会が10月14日(金)にとり行われました。

「豊穰協潤」の文字が刻まれた記念碑は、布施川左岸地区ほ場整備委員会の山本弘吉委員長、宮腰光寛衆議院議員、寺井幹男農林水産部長ほか来賓の方々との関係者の皆さんにより除幕されました。完工祝賀会には関係者約60人が出席し、金太郎温泉光風閣にて盛大に行われ、事業の完工を祝いました。

■地区概要

経営体育成基盤整備事業 布施川左岸地区は平成17年度に新規採択され、



完工式における記念碑の除幕

平成22年度までの6箇年をかけ、蛇田・小川寺地区内の58.7畝のほ場整備工事をを行いました。

布施川左岸地区は昭和10年〜18年に耕地整理事業で10ヶに区画整理され、同時に整備された水路や農道を使用してきましたが、区画が小さいうえ農道も狭く、農業機械の大型化に対応できていないことや用排水路・農道は老朽化が進み、維持管理には多大な労力を要するなど、営農効率が低いものとなっていました。

このような状況を踏まえ県では、高生産性農業の確立と優良農地の保全を図るため、総額約9億8千万円を投じ、大区画ほ場整備工事をを行い、農道は大型機械に対応できるよう拡張し、用排水路についても整備を行いました。

地元では布施川左岸地区ほ場整備委員会を設立し、計画策定から完工までの長期間にわたり、地元調整や関係機関との調整、換地に至るまでの多岐にわたる業務に対し積極的に取り組み、重要な役割を果たしてきました。

また、本地区の採択を契機に平成18年2月には農事組合法人「布施の里」が設立され、高性能農業機械施設の導入や農地の集積などに取り組み生産性の向上を目指すと共に、収穫祭等を開催し地域の交流を図り担い手として営農の中心となっています。

■北陸新幹線との調整

北陸新幹線が、地区中央部で10ヶ区画のほ場を斜めに横切り、三角形の残地が新幹線沿いにおよそ600m生じることになっていましたが、ほ場整備の実施によりこの残地の問題は解消されました。

一方で、ほ場整備の道路・水路と新幹線高架橋との交差や用地境界など解決すべき課題が多く存在し、協議・調整に多大な時間を要しました。また、ほ場整備に際し、排水路を埋めるための土砂不足が懸念されましたが、新幹線建設工事に伴う発生土を流用することで資源を有効活用でき、コスト削減が図られました。

今後は整備された農地、農業施設を将来にわたり維持・保全し、担い手による効率的かつ安定的な地域農業が確保されることを期待します。

地域で取り組む鳥獣害対策

「新川サル・イノシシ被害対策フォーラム」開催!

11月29日(火) 魚津市新川学びの森天神山交流館において「新川サル・イノシシ被害対策フォーラム」が開催されました。



分科会における事例報告

【農村整備課 農地整備第一班】

【農村整備課 農地整備第一班】



地区を横断する新幹線施設

れ、管内の市町、農協、被害集落代表者や富山県農作物鳥獣被害対策連絡協議会等の関係者約150名が参加しました。

このフォーラムは管内に広がる二ホンサル、イノシシ等の被害に対応するため、被害の現状や今後の対策について認識を深めるとともに、地域住民と関係者が一丸となった広域的な鳥獣害対策の推進を目的とし開催されました。

当センター長谷所長の開会挨拶の後、朝日町産業課 荒尾穂高氏(農林水産省 農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー)より「自分たちで守る農地と生活環境」を、富山県自然博物館ね

いの里 間宮寿頼氏(農林水産省 農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー)からは「相手を知って正しい獣害対策」と題して基調講演が行われました。

昼食時にはイノシシ肉を食材としたシシ鍋がふるまわれ、参加者からは「肉も柔らかく美味しい」との声が聞かれました。

また2階特設展示場では、地域での取り組みを紹介した活動パネルのコーナーや各資材メーカーの獣害防除資材の展示コーナーが設けられ、参加者が機材について熱心に質問する姿が見られました。

午後からは生息環境管理、被害防除、捕獲の3分科会に分かれ、各市町での事例報告を基に今後の取り組み活動向上に向け熱心に討論が行われました。

最後に全体報告会が行われ、地域の意識を高め基本を忠実に継続的に根強く取り組み重要性を確認し閉会しました。

【企画振興課】



獣害防除資材展示コーナー

土地改良区紹介

滑川南部土地改良区

当土地改良区は、昭和37年2月に中加積地区土地改良区として設立され、県下に先駆けて構造改善事業を行い、昭和39年2月に現在の滑川南部土地改良区となりました。

昭和39年～44年に445.3畝(旧中加積地区と旧西加積地区の国道8号線より山側)を県営圃場整備事業で整備し、平成8年～13年には担い手育成基盤整備事業(土地絵)を実施しました。これにより、老朽化した施設の大半が改修されましたが、改修できなかった施設も多数あります。現在、そのような施設については可能な限り補修しながら少しでも長く使用することで組合員の負担軽減を図っていますが、組合員の高齢化や後継者不足等と共に今後の大きな課題となっています。

しかしながら、担い手や農事組合法人、営農組合が農地の利用集積を進め、市の農業公社と連携して農地の有効利用と放棄田の防止に努め新しい農業政策に取り組んでいます。今後は、「滑川南部土地改良区だより」の発刊を通して、土地改良区の役割や土地改良施設のPRに努めていきたいと思っております。

また、地区の行事として平成18年度

から3世代交流「たんぼにおえかき」と題して地域の方々で交流し、田植え、稲刈、収穫祭、ドローン運動会を通して身近な自然との触れ合いを楽しんでいます。当土地改良区はこの行事に応援しており、今後はそういった場でも土地改良区の役割や土地改良施設をPRし、地域の方々に広く知っていただくよう努めてまいりたいと思っております。

【事務員 原 こすえ】

新規地区紹介

ため池等整備事業 坪野地区

今年度から、ため池等整備事業「坪野地区」に着手しました。ため池等整備事業は、ため池の改修を行うことにより、災害の発生を未然に防止し、安定的な農業経営を図ることを目的としています。

本地区で改修する山谷池(やまのたにいけ)は、魚津市南西部の坪野地区内にあり、当池を含む複数のため池群により、当該地域の農地約11畝をかんがいしています。この山谷池は近年、老朽化による漏水や波浪による堤体の変形などが生じ、破堤の危険性が高まっていることから早急に改修する必要があります。

一方で、山谷池には県のレッドデータブックに記載されている水生動物(2種類)や植物(3種類)が存在していることから、ため池の改修に伴う生きものへの影響を軽減するため、今年10月10日(月)に地元住民などが中心となって移動作業を実施しました。また、移動先には近隣の休耕田を



平成23年度たんぼにおえかき 滑川市のイメージキャラクター「キラリン」

投稿記事

新川農林振興センターは 何をしようか?

住民の方々と接する機会に「(県)市の〇〇センター(事務所)ちゃん何をしている機関なのかのう?」という声をよく聞きます。

国における省庁再編や地方分権の進展によって枠組みが見直され、行政評価の導入や情報公開などにより、行政の説明責任(アカウンタビリティ)が問われるようになっていきます。また、時代が大きく変化し、住民ニーズが多様化する中、よりの確にスピード感を

もって行政を進めるには、住民の皆さんのニーズをしっかり捉え、それを生かして効率的に展開することが必要な時代であります。

県では、新聞や県広報「とやま」などの広報紙等活字媒体をはじめ、テレビ・ラジオの電波媒体、さらには、県HP・メールマガジン等により、県民の皆さんに県の施策や課題を周知し、理解と参加を得るための広報活動に取り組んでいるところです。

当センターにおいても、独自にセンター全般にわたる施策を紹介する「新川農林振興センター通信」(年2回発行)、農業農村整備に関する事業等を紹介する本紙「新川水土里たより」(年4回発行)、農業関係情報を提供する「あぐりめーる新川」(年4回発行)、「農業普及だより」(年1回発行)などの情報紙の発刊、CATVでの「あぐりアイ新川」の放映、センターHPの開設など多くの媒体を活用し、当センターの施策等の情報を発信

しているところです。

今後とも、こうした媒体を県民の皆さんとの情報共有のツールとして積極的に活用し、新川地域の元気あふれる農業と魅力ある農山村の実現に向けて、センター職員が一丸となって取り組んでまいりたいと思っております。

【事務次長 松野 優】

災害復旧派遣

東日本大震災による被災地の現状 (福島県南相馬市)

11月1日から11日まで、福島県相双農林事務所にて東日本大震災により被災した土地改良施設の復興支援を行いました。業務は被災した排水機場の災害査定設計書に関する調査と資料整理を行うことが主な業務でした。派遣地である南相馬市は津波の影響だけではなく、福島第一原発から20km～30km圏内にある地域のため、放射能汚染の影響で、震災前の約7万人の人口が、一時は避難により1～2万人まで減少したそうです。夜になっても家の明かりがなく、辺りを見回しても真っ暗な街となっていたそうですが、今では放射線量がそれ程高くないとい



ビオトープの造成状況



被災した農業集落排水施設

イベント情報

展示案内

◎「第23回 富山県農村振興技術連盟写真展」
テーマ『伝えます。とやまの水土里』

■作品の巡回展示
・魚津総合庁舎 1Fロビー
平成24年2月6日～10日

編集後記

今年も残すところあとわずかとなりました。今年を象徴する出来事と言えは東日本大震災を改めて他にはありません。

復興に向け、本県からは今もなお多数の方々が支援活動が続けられています。被災された方々共々、一層寒さが厳しくなる時期を迎えますが、体調管理には十分気をつけ頑張っていたきたいと思います。【池田】